

気候変動でサンマはどうなるの？



みなさん、サンマという魚は知っていますよね？ 秋になるとスーパーや魚屋さんにたくさん並ぶおいしい魚です。最近「骨なし魚」として給食のメニューにもお目見えしています。

故郷は太平洋の暖かい海

サンマは北の海で獲れる、秋の味覚の代表ですが、実は、生まれ故郷は太平洋の、四国から東海道にかかる沖合

の暖かい海です。冬に生まれたサンマの子どもは、黒潮という暖かい海の流れ（海流）に流されて、北に移動しながら成長します。春から夏にかけて大きく成長しながら北に向かい、北海道を越えて千島列島沖まで行きます。夏の終わりにはウターンして、来た道を引き返すように南に泳ぎ下って、長い旅の果てに生まれ故郷の暖かい海に戻ってきて卵を産むのです。北の海で成長して



つぷり脂^{あぶら}がのり、南の生まれ故郷^{ふるさと}に戻^{かへ}ってくる途中^{うちう}のサンマを、秋の味覚^{あきあじ}として私^{わたし}たちは食べているのです。

サンマの寿命^{じゅみょう}は2年と考えられていて、回遊^{かいゆう}と呼ばれるこの長い旅を一生のうち2回繰り返します。サンマが回遊しながら大きく成長してくれるおかげで、私^{わたし}たちはおいしいサンマを秋に食べることができるのです。

しかし、最近、地球温暖化^{ちきゅうわんぬあ}がサンマに与^{あた}える影響^{えいさう}が心配されています。もし、世界中の国々が温暖化防止対策^{おんだんかほしさいさく}をし

っかりとったとしても50年後には、サンマが回遊する海の温度は、南の海で3度、北の海で1度くらい高くなると、予測^{よそぐ}されています。海が暖かくなると、サンマが泳ぐのにより多くのエネルギー^{えんじき}を消耗^{しょうしょう}します。

餌^{えさ}のプランクトンも減少^{げんじょう}

また、暖^{あたた}かくなった海では、底の方にある栄養素^{えいようそ}が太陽光^{とく}の届^{とど}く表面近くに上がってこなくなるため、植物プラン



クトンが増えなくなり、植物プランクトンを餌^{えさ}にしている動物プランクトンが増えません。サンマは動物プランクトンを餌^{えさ}としています。泳ぎ疲れ^{つかれ}、餌^{えさ}を十分食べられないために、やせて小さなサンマばかりになってしまふことが心配されます。

このまま地球温暖化^{ちきゅうわんぬあ}が進むと、50年後には脂^{あぶら}ののっていない小さなサンマがお店^{みせ}に並ぶようになっているかもしれません。